

2020年度の研究プロジェクトについて

教養教育センター附属研究所長 嶋田彩司

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会情勢の変化にともない、研究活動にもさまざまな制約が加えられることとなり、研究プロジェクトの継続についても再考を余儀なくされる事態となった。教養教育センター附属研究所は、2020年7月19日付で以下のような提案をおこない、所員の同意を得た。

教養教育センター附属研究所の今後の活動について(案)

【骨子】

- ・新型コロナウイルスへの感染拡大がつづく現況に鑑みて、今（2020）年度（秋学期以降）の研究プロジェクトに関しては、所員の健康確保を最優先し、予定される諸活動を中止ないし大幅に縮小して実施することを可とする
- ・結果として今年度実施し得なかった活動については、次年度に持ち越すことができるものとし、そのために必要な予算措置をおこなう

【個別】

1. 今年度の研究プロジェクトについて

- 1) 代表者には、中間報告を8月17日（月）迄に提出願いたい。A4用紙、書式自由。活動実績（ない場合はその旨）と秋学期の予定（執行予算額の見通しを含む）を、教養教育センター（担当は広瀬、土佐両氏）宛メールに添付のこと。なお、年度末の報告については別途検討のうえ、通知する
- 2) 現下の状況では研究計画の完全な遂行が困難であることも考えられる。その場合には、計画を次（2021）年度へ持ち越し、継続することも認める。継続を希望する場合には、8月17日（月）迄に教学補佐にその旨をメール連絡願いたい
- 3) 上記2) について、次年度継続する場合には、各プロジェクトの未執行予算額の80%を上限として次年度に繰り越すことができるものとする

2. 次年度の研究プロジェクトについて

- 1) 上記1)の継続案件（便宜上「研究プロジェクトA」とする）については、修正版「予算計画書」（必須）と「研究プロジェクト計画申請書」（変更ある場合のみ）を9月25日（金）迄に提出していただきたい
- 2) 上記とは別に新規のプロジェクトを募集する（「研究プロジェクトB」）。助教、助手の職位にある所員を申請者とし、助手については教授、准教授、専任講師の職位にある所員のすくなくとも1名を共同研究メンバーに含むものとする（助教については不要）。予算については、次年度は今年度研究プロジェクト予算枠のうち、研究プロジェクトAを差し引いた残余の枠内におさめるものとするため、現時点で採択予定件数と金額は未定である。具体的な募集要領等が定まり次第、当人に知らせる

- 3) なお、研究プロジェクトBについて、研究プロジェクトAのメンバーが重複して申請者に加わることはできないものとする
- 4) 研究プロジェクトA、Bともに、付属研執行部の事前審査を経て、秋季所員会議（総会）の承認を得るものとする
- 5) 研究プロジェクトBについて、次年度は試行的実施と位置づける。2022年度以降に、研究プロジェクトA、Bともに見直しをおこなうものとし、今後そのための議論をおこなう予定である

〈プロジェクトAについて〉今年度の研究プロジェクト名とメンバーは下記の通りである。上記の方針に沿って各代表者にプロジェクトの進捗状況と次年度に向けての要望を聴取した。その結果、

- ・今年度の活動については大幅な縮小を余儀なくされており、次年度への継続を希望するもの……①,②,③,⑥
- ・今年度と同様、次年度においても活動が困難で、継続を希望しないもの……⑤
- ・今年度の活動に一定の成果が見込まれるため、今年度で終了とするもの……④

となり、これを2020年10月21日開催の秋季所員会議において承認した。

①	ひとびとの歴史を表現する：首都圏開発と市民活動の現代史的探究 *猪瀬浩平、長谷部美佳、植木猷、可部州彦、荻村哲朗
②	神山町旧村役場文書から見た人の移動に関する研究 *吉岡拓、鄭栄桓
③	林京子と上海 — 共生／加害の記憶 — *篠崎美生子、洪潔清、渡辺祐子
④	Revisiting Extensive Reading in the Digital Age: An Exploratory mixed Methods Study on Japanese University Students' Affective Responses *Jesse Elam, Dax Thomas, Dawn Grimes-MacLellan
⑤	大学生の体的特徴－運動選手と非運動選手の比較－ *杉崎範英、森田恭光、諏訪間恵美
⑥	筋と腱における「硬さ」の評価～超音波剪断波エラストグラフィを用いた測定とその妥当性～ *黒川貞生、榎本翔太、亀ヶ谷純一、中谷深友紀、土屋陽祐

なお、今年度をもって終了する④の活動報告は次項に掲載のとおりである。

〈プロジェクトBについて〉 プロジェクトBは、比較的若い研究者に対する研究支援を趣旨とする。公募の結果、下記の1件について上記所員会議において承認を得た。

①	Extensive Reading vs. Audio-Assisted Extensive Reading: A Comparison of Performance and Motivation
	Dax Thomas

2022年度以降の実施方針については、次年度前半に研究所執行部で協議し、所員に提案をおこなう予定である。

研究所概要

月例研究報告

新所員研究概要

ランゲージラウンジ活動報告

語学検定講座報告

研究プロジェクト

研究業績